



東京家政大学 女性未来研究所

女性と男性が共に作る人間社会 地球社会の幸福を増進する研究をすすめ、
社会に貢献することをめざす。

女性の過去、現在を分析し、問題点を解決する方法を探り、
女性の未来の可能性をさらに拡大して構築する。



「人生100年」 令和の女性へ

事の多かった1年が終わり、2020年、令和2年が明けました。東京中がオリンピックで様変わりする動きにいささかの懸念を抱きながらも私は生涯2度目の東京オリンピックに出会えることを素直に喜びたいと思います。

さまざまな問題を含みながらも、オリンピックの歴史を振り返れば、そのキーワードは「平和」と「多様性」です。古代オリンピックの時代、あちこちで戦争が行われていても、オリンピックをやろうとなると一時休戦した、と言われます。近い過去においては、第1次世界大戦に向けて風雲急を告げる中最初の東京オリンピックが中止となったことはよくご存じでしょう。オリンピック開催は、何よりも世界平和の証なのです。

もう1つの側面は、多様性の尊重、ことばを換えれば平等の推進です。とくに男女の平等、女性の社会進出という目で見ると、オリンピックの歴史はそのまま女性進出の歴史です。

そもそも古代オリンピックでは、女性の選手はゼロ、観客としてさえ入場を許されなかったそうです。クーベルタン男爵によって再開された近代オリンピックでも、当初女性が参加できる種目は、テニスとか馬術とかごく限られたものでした。

しかし、時代と共に種目はどんどん広がります。女性選手は必ずしも好意的ではない好奇の目にさらされながら、自分の尊厳と国の名誉をかけて全力でたたかいました。日本に初の女性メダルをもたらした第9回アムステルダムオリンピックの人見絹枝（800メートル競走）は、その後短い人生を終わるとき、「自分は何と言われようと耐えるが、あとに続く女性たちへの悪口は許さない」とはっきり述べています。当時はオリンピックの栄誉は讃えられましたが、速く、力強い、というアスリートの特徴は「女らしくない」として悪口の対象にもなったのです。今どきの女性選手の活躍を目にすると私の胸はときめきます。1980年代まで、42.195キロのマラソンを女性が走るのは無理、と言われ、正式種目になったのは1984年ロサンゼルス・オリンピックからですから。

時代の精神は、多様性への関心と寛容、そして人生100年時代を迎えて、今と未来を決してあきらめないことです。未来をつくるのはあなた自身です。



東京家政大学 女性未来研究所
名誉所長 樋口 恵子

第3期 研究プロジェクト

Theme 1



女性の未来と希望の支援

女性未来研究所がコーディネートしている共通教育科目の授業を充実し、本学独自の内容とするため、カリキュラムと教科書の作成プロジェクトを立ち上げ、完成を目指す。



Theme 2



人生100年時代の女性の人生

子育て期の女性支援に向けた研究プロジェクトを推進し、成果を地域社会に還元する。



女性未来研究所は、持続可能な開発目標を支援しています。

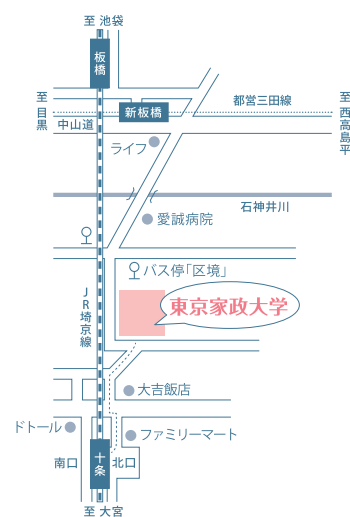
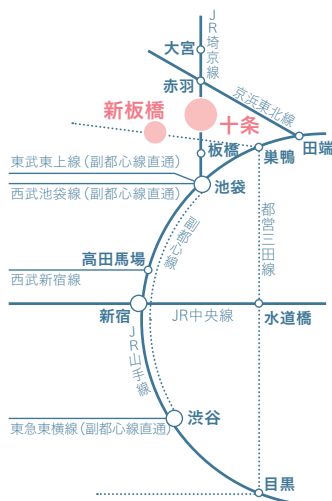


*SDGs (Sustainable Development Goals)

2001年に策定されたミレニアム開発目標(MDGs)の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標。

所在地・交通案内

- JR 埼京線「十条駅」下車徒歩5分
- JR 埼京線「板橋駅」下車徒歩17分
- 都営三田線「新板橋駅」下車徒歩12分
- JR 王子駅より国際興業バス「板橋駅」行きにて8分、バス停「区境」下車徒歩1分



東京家政大学 女性未来研究所 [板橋校舎 大学8号館1階]

〒173-8602 東京都板橋区加賀1-18-1

TEL : 03-3961-5305 FAX : 03-3961-5513

E-mail : josei-mirai@tokyo-kasei.ac.jp

URL : <http://www.tokyo-kasei.ac.jp/tabid/2095/index.php>



東京家政大学
女性未来研究所
The Institute for the Advancement of Women